

B型肝炎ワクチン 予防接種説明書

< B型肝炎ウイルスの感染予防 >

☹ B型肝炎とは？

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスの感染により起こる肝臓の病気です。B型肝炎ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合(この状態をキャリアといいます)があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうち一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。主な感染経路は血液などの体液によるもので、国内の持続感染者が110万人～140万人と推定されています。

これらの病気を防ぐために行われるのが、B型肝炎ワクチン予防接種です。

😊 接種について

B型肝炎ワクチン

ワクチンを接種することで、体の中にB型肝炎ウイルスへの抵抗力(免疫)ができます。免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。

接種対象者：接種時点で竹富町の住民である1歳未満のお子さん

※母子感染予防のために抗HBs日と免疫グロブリンと併用してB型肝炎ワクチンの投与を受けたおさんは除く

標準的な接種期間：生後2月に至った時から生後9月に至るまでの期間

接種回数	間隔
初回：2回	27日以上
追加：1回	第1回の注射から139日以上

接種方法：皮下接種

※1歳になってしまうと、定期接種の対象外となります。1回目の接種から3回目の接種を終えるのに約半年かかりますので、接種スケジュールをよくご確認ください。

注) 発熱などで接種間隔内に接種できなかった場合でも、熱が下がるなどして接種ができる状態になったあと、すみやかに接種を受ければ定期の接種とみなされます。

☹ 接種後にみられる主な副反応

接種部分が赤くなったり、腫れたり、しこりが見られたりしますが、おおむね短時間で軽快します。副反応が起こる頻度は、ほかのワクチンと同じ程度です。37.5℃以上の熱が出ることがあります。熱は38℃や39℃以上に及ぶこともあります。発熱のほとんどは接種した当日や翌日に認められ、その多くは1～2日で下がります。普段と様子が大きく異なるときや発熱が3日以上続くなど、心配な場合はかかりつけ医に相談してください。